



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY



第10回例会(9月25日)
令和2年10月2日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代)
例 会 日 毎週金曜日12時30分～
<https://www.morioka-rc.jp/>

会 長 米内 正
幹 事 大平 騰一
会 報 佐藤 仁志
クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ Rotary Opens Opportunities:ロータリーは機会の扉を開く…ホルガー・クナーケ
盛岡RC会長テーマ 奉仕の輪を拡げ困難を乗り越えよう 米内 正



新入会員卓話

明治期の医師の創り方 —岩手医科の系譜—

岩手医科大学 理事長
日本私立医科大学協会 会長

小川 彰 君

南部藩における教育は藩校「明義堂」で行われ、その後、「作人館」と名前を変え、さらに、維新の5年前、洋学校「日新堂」が作られ、製鉄・砲術・医学など洋学の発展に寄与しました。しかし、日新堂は兵器製造所とみなされ明治維新とともに残念ながら廃校にされました。

明治7年になり日本初の厚生行政法令「医制」が公布され、明治8年から医業の許可制、医術開業試験の実施が決まりました。これを受け、全国で県医学校が続々開設（30校）され、岩手県医学校も明治9年開設されました。しかし、明治20年「府県立医学校の費用を地方税で賄う事を禁ずる」旨の勅令が公布され、明治21年にはほとんどの県立医学校は廃校になってしまいました。岩手県医学校も明治19年には廃校となり、東北・北海道の医育機関は宮城医学校のみとなってしまいました。

その結果、北東北・北海道の医療は荒廃し、様々な感染症で命を落とすもの、また、伝染性の角結膜炎であるトラコーマで失明するもの多数、医療の荒廃は目に余るものがありました。

この医療の窮状を憂い、本学創立者三田俊次郎は私財を投げうって明治30年医学校を設立しました。これが、岩手医科大学の前身です。北東北・北海道唯一の医学校であり、かつ、全国的に地方では初の私立医学校でした。数年前県立図書館から貴重な資料が見つかりました。明治40年発刊の

「10年間経営概況報告」です。緒言には「明治30年岩手県より旧岩手県立病院の敷地建物を借り私立岩手病院、岩手医学校、岩手看護婦養成所、岩手産婆学校を設立した」とあります。この時代に地方で医学校を設立したことのみならず、看護学校、産婆学校を同時に開設した“先見性”には頭が下がります。国が「産婆規則」を制定したのは明治32年、「看護規則」を制定したのは大正4年で、そのはるか前に学校を創った意味は大きいと思います。「医師養成だけでは地域医療は成り立たない、産婆・看護師の力が必要だ」。その裏には当時名前すらない「チーム医療」を考えていたと思われ先進的な考えでした。明治30年開設の岩手看護婦養成所は看護学校としては全国六番目であり、岩手は医学教育の分野では全国先進県と言えるでしょう。明治30年頃の医学校は、官立が東京帝国大学、第一高等学校（千葉）、第二高等学校（仙台）、第三高等学校（岡山）、第四高等学校（金沢）、第五高等学校（長崎）、京都府立医学校、愛知県医学校、大阪医学校の9校、私立は済生学舎、成医会講習所、岩手医学講習所、熊本医学校の4校のみで、計13校しかありませんでした。

済生学舎（本郷通り東京医科歯科大学裏ホテルガーデンパレスの場所にあったようです）（明治9年～36年）は舎長として長谷川泰が運営しました。長谷川泰は奥羽越列藩同盟のひとつ元越後長

岡藩士（藩医）として北越戦争に従軍しました。総大将長岡藩家老河井継之助は会津へ向けて八十里峠を越える際戦死しました。最後をみとったのが長谷川泰でした。（「峠」司馬遼太郎で有名）明治の初期最も多くの西洋医師を輩出し明治期の医療体制の充実に最も大きい役割を果たし、野口英世も輩出しました。

一方、文部省の考えは違っていました。済生学舎の様な予備校的医学校は廃止し官立の東京大学を中心とした医学教育に改めるべきと主張しました。文部省、東京大学の考えの筆頭は、当時陸軍軍医総監の地位にあった森林太郎です。森林太郎は後に文学の道に進んだかの有名な作家「森鷗外」です。

一方、森林太郎の主張に対し、内務省衛生局長の職にあった後藤新平は「一般国民のためなるべく多くの西洋医師を養成することが国家の急務なのに、学問の重要性ばかり議論（「學術の深遠は学者の道楽にあり。」）して医師の養成を怠るのは行政の取る道ではない。」と痛烈に批判しました。しかし、陸軍軍医総監森林太郎と東京大学の考えが現実になってしまいました。明治36年（1903年）「専門学校令」が勅令61号として発布されてしまったのです。内容は①私立医学校存続には文部大臣の「認可」が必要である。②官立並みの実験設備及び建物の完備を求める。というものです。済生学舎が標的でした。よっぽど頭にきたのでしょうか。長谷川泰は専門学校令が発布された年に済生学舎を閉校し長岡へ引き込んでしまいました。

岩手は地方だったので、大目に見られていたのだと思います。勅令の実施は大幅に遅れました。しかし、明治45年（大正元年）になり岩手医学校も廃校の憂き目にあいました。岩手県も岩手医学校も貧しく、官立並みの設備や建物を完備することは不可能だったのです。

ちょっと横道にそれましょう。森林太郎と日清・日露戦争の話です。当時脚気論争がありました。脚気は原因不明の病気でした。（ビタミンB1欠乏が原因）明治16年軍艦龍驤が太平洋を10か月の演習航海をした時のことです。乗員378名中169名に

脚気が発生し、内23名が死亡するという事件が起こりました。海軍医務局長（後に海軍軍医総監）高木兼弘は留学時イギリス海軍ではこのような病気はなかったことから兵糧に目を付けました。事件のわずか5か月後、同規模の軍艦で同じ航路、同じ期間演習航海をさせ兵糧のみを変えろという、今で言う大規模臨床比較試験を行った結果乗員333名中一人の脚気患者も出ず兵糧に問題があることを証明し、以降海軍の兵糧を麦飯中心に変えたのです。（吉村昭「白い航跡」）一方、森林太郎はじめ東京大学はコッホのもとに留学していたこともあり細菌説に凝り固まっていました。海軍は兵糧を変えた結果、日清、日露戦争を通じ脚気死亡を0に抑えることができたのに対し、陸軍は日清戦争では戦死者の10倍が脚気で死亡しています。日露戦争になっても兵糧を変えずに白米にこだわり戦死者数の約半数以上が脚気で死亡しています。

話を変えて、本学とゆかりのある岩手県の人のお話に触れたいと思います。「不来方のお城の草に寝ころびて空に吸われし十五の心」（明治43年）石川啄木です。内丸の旧循環器医療センターは元盛岡中学跡地です。啄木はここで学びました。昼休みの時間でしょう、お城で寝ころんでこの有名な詩を読みました。

宮沢賢治は啄木の盛岡中学10年年下で、啄木に影響を受け、短歌の制作を始めます。大正3年3月、19歳の宮沢賢治は岩手病院（本学）で鼻の手術をしました。賢治は入院中看護婦に初恋をして、多くの恋歌を作りました。高橋ミネさんといいます。ふっくらとした顔立ちに生真面目な印象。おそらく入院中の賢治の目に、優しく、愛らしい女性として映ったに違いありません。しかし、残念ながら片思いだった様です。賢治の晩年には名作といわれる文語詩「岩手病院」を著し、その碑は内丸の病院前にあります。

また、「我太平洋の橋とならん」の名言を残し、国際連盟事務次長を務めた新渡戸稲造は盛岡人です。Bushido: The Soul of Japanで有名です。その序で「あなたのお国の学校には宗教教育はない、

とおっしゃるのですか」と、尊敬すべき教授が質問した。「ありません」と私が答えるや否や、彼は驚いて突然歩みを止め、「宗教なし！ どうして道德教育を授けるのですか」と繰り返し言ったその声を私は容易に忘れえない。数年考えた挙句自身の正邪善悪の観念を吹きこんだものは武士道であることをようやく見いだしたのである。」として「武士道」を英文で著したのです。大正3年、宮古視察の際、帰りのバスが谷底に転落し受傷し、本学に入院しました。岩手県交通事故受傷者第一号です。また、昭和3年にも下北半島視察の際おなかをこわし本学に入院しています。

明治45年専門学校令で一時閉校に追い込まれた本学ですが、多くの方々の長年の努力のおかげで昭和3年岩手医学専門学校として再発足することが出来ました。水沢出身の後藤新平は岩手医学専門学校発足の年の6月17日来学され、「現代ノ医学」と題して講演しています。脳卒中で倒れ71歳でお亡くなりになるわずか10か月前のことであり、本学学生を前に「医学は国民のための実用の学問であり、社会を幸福に導くことが医者としての任務である。」と説きました。またこの時、本学に「宇宙は手にあり、万化は身に存す 新平」と揮毫した扁額を残しています。宇宙が自らの手の中にあり、すべて社会を変えてゆくのは自身で出来るといっている訳で「大風呂敷新平」面目躍如の書です。

さて、岩手の偉大な先人を語る時、岩手医学専門学校第2代校長、岩手医科大学初代学長、岩手医科大学第2代理事長三田定則を外すことはできません。三田定則は三田俊次郎の養子です。東京帝国大学に学び、教授として日本の法医学・血清・血液学の祖と言われ多くの弟子を輩出しています。東京帝国大学を定年退職と同時に、台北帝国大学初代医学部長に任ぜられました。1年後には同大の第2代総長として、工学部を設置するなど、医学教育・医療ばかりでなく高等教育の基を台湾に残したのです。

日本と台湾の関係は極めて深いものがあります。前述の後藤新平は台湾総督府民生局長として道路・鉄道を敷設し港を造るなど台湾の社会基盤

の整備に力を尽くしました。特筆すべきは台北市です。自身の都市計画に沿って広い道路を南北に配置し、さらに、上下水道を完備しました。当時、上下水道を完備した都市は世界で初めてでした。近代国家になるためには、社会基盤の整備だけでは十分でなく経済を殖産する必要を感じました。米国にいた新渡戸稲造を三顧の礼で無理に台湾に招きました。台湾糖務局長に任じたのです。稲造は台湾に赴任するや、直ちにインドネシアに赴きサトウキビの苗を集め、台湾の気候・風土に合うサトウキビを選定し製糖業の基礎を築いたのです。これが台湾の経済基盤の基となりました。この様に、社会基盤の基は後藤新平、経済の基は新渡戸稲造に、教育・医学の基は三田定則によるのです。近代国家台湾の基礎は全て岩手県人によって築かれたのです。

さて、三田定則は昭和16年台北帝国大学総長を辞し、故郷岩手に帰ってきました。岩手医学専門学校第2代校長としてです。戦後になり、学校制度が大きく変わりました。昭和22年東北地方で初めての新制大学として岩手医科大学が開校しました。貧しかった岩手医学専門学校・岩手県にとって大学昇格は容易ではありませんでした。GHQ、文部省から視学官を派遣し、大学昇格可能かA級校とB級校に選別評価するのです。A級校は新制大学に移行しました。岩手医学専門学校も岩手県も貧しく内丸の古い建物しかありませんでした。せめて教室の壁ぐらい白くきれいにしたいと願ったのですが、なにしろお金がなくペンキすら買えなかったのです。どうせ視学官の滞在は数日です。1週間も持てばよいのだからメリケン粉を塗ればよいと学生・教職員・同窓生一丸となって壁を塗ったとの逸話が残っています。これらの努力の末、ようやくA級校に認定され開校にこぎつけたのです。もちろん、帝国大学の元総長三田定則の名声も大いに力となったことは想像に難くありません。

また、昭和天皇は敗戦を受け、国民への説明に「行幸」と言い全国行脚しました。昭和22年 岩手県行幸の時の事です。昼の釜石訪問を終え、宿舎

となっている小岩井にお帰りになられた時、「岩手には三田がいる筈。会いたいから呼ぶように。」とお話になりました。当時の本学学長 三田定則です。その時、昭和天皇に日本の大学教育について「いままで大学は、学問の深奥をさわめるということを第一義に目標にかかっていた。人格の陶冶は第二にされていた。それを人格を第一義に、学問を第二ということに改めなければならない。」と申し上げたそうです。昭和天皇は納得してお聞きになり、「夕食を一緒にしよう。」とおっしゃられたそうですが、あまりに恐れ多くその場を辞し帰ったと伺っています。これをもとに「至誠」を

学是とし、「本学の目的は、医療人教育を通じて誠の人間を育成するにある。」と学則に刻むようになったのです。

本学は地方にありながら医育の分野で長い歴史を刻んできました。医学部・歯学部・薬学部・看護学部を擁し他に例のない学部間の垣根のない連携教育・診療・研究体制を確立した医系総合大学です。地方にあるからこそ日本・世界に発信する一流大学をめざし努力してまいります。今回はお話できませんでしたが、世界に冠たる多くの業績を誇っています。また、機会がありましたらこれらの業績についても紹介したいと思います。

例会報告

第10回例会
令和2年9月25日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 米内正会長
- ・ロータリーソング (手に手つないで)
- ・会長報告 米内正会長
- ・幹事報告 大平騰一幹事
- ・委員会報告

【ニコニコBOX】

- ◆長野隆行君…小川先生、卓話有り難うございました。明治期の混沌とした医療界のお話を拝聴しました。先

人のご苦勞に今更ながら脱帽です。

- ◆西島光茂君…小川理事長の「明治期の医師の創り方」は、すばらしい話でした。三田定則先生の縁もあり、台北のいずれかのロータリークラブと姉妹クラブになればいいなと考えました。
- ◆斎藤和好君…岩手医科大学理事小川彰先生のすばらしい卓話に、大変感激致しました。同窓会員の一人としてもロータリアンの一員としてもお礼申し上げます。
- ◆米内正君…小川彰先生、明治期の医師の創り方と題する卓話、ありがとうございました。あらためて母校の歴史を知るよい機会となりました。母校のますますの

発展を祈ってニコニコします。

- ◆近藤駿君…飯塚会員のニコニコ発表前に大きい声で「カモッ〜ン」と叫んでください。
- ◆飯塚肇君…テニス全米オープン女子決勝、大坂なおみは第一セットをアザレンカの気迫にぼろ負けするも、良く立て直して逆転勝ち。第一セットを落としての逆転勝ちは26年ぶり。7枚のマスクを使い切って、3回目のグランドスラム制覇を果たしたなおみにニコニコします。

- メイクアップ
クラブ委員会=大平・岡村君

出席報告

会員数/77名

出席数/52名

出席率/70.27%

前々回/80.82%

プログラムのお知らせ

- ・10月2日(金) ゲスト卓話 長澤聖浩様 (紫波町文化財調査委員)

「米山梅吉翁と彦部村」

- 9日(金) 米山奨学生卓話 趙玥棋さん (米山記念奨学生)

- 16日(金) 第2回クラブアッセンブリー

- 23日(金) 卓話

22日(休) 秋の懇親会中止のため

- 30日(金) 特別休会②



●本号編集担当/大久保嘉二